

海外紹介

国際会議報告 1

第4回国際経穴部位標準化に関する非公式諮問会議報告

2005年4月25日(月)~27日(水)

於: 韓国東洋医学研究所(大田)、大韓民国

形井秀一、篠原昭二、浦山久嗣、香取俊光、小林健二、河原保祐、坂口俊二

第二次日本経穴委員会作業部会

要 旨

第4回国際経穴部位標準化に関する非公式諮問会議が、2005年4月25日~27日、韓国大田の韓国東洋医学研究所で開催された。

今回は、日本、中国、韓国の3か国で部位の同意が得られていない18穴、3か国で部位は一致しているが、表現に検討が必要な16穴、さらに3か国で部位の一致をみているが、中国側が表現の再検討を求めてきた24穴の計58穴が検討課題であった。

3日間に及ぶ議論の結果、検討できたのは42穴で、そのうち32穴については3か国での同意が得られたが、10穴については再保留となった。

今後は、各国代表1名の参加による特別委員会を8月に北京で開催して事前調整を行う。その後、2005年9月25日~27日、大阪の関西鍼灸大学において、第5回国際経穴部位標準化に関する非公式諮問会議を開催し、経穴部位標準化最終案を決定する。

キーワード: 国際経穴部位標準化、第二次日本経穴委員会

I. 参加者

1. WHO (WPRO=西太平洋地域事務局)

Dr. Choi Seung-Hoon (崔昇勲)

Responsible Officer of Traditional Medicine,
Medical Officer, Regional Office for the Western
Pacific

tute of Acupuncture and Moxibustion, China
Academy of Traditional Chinese Medicine

(3) Professor Jin Zhigao (晋志高)

Institute of Acupuncture and Moxibustion, China
Academy of Traditional Chinese Medicine

(4) Professor Wu Zhongcao (吳中朝)

Institute of Acupuncture and Moxibustion, China
Academy of Traditional Chinese Medicine

(1) Professor Wang Xuetai (王雪苔)

Honorary President, World Federation of Acu-
puncture and Moxibustion (WFAS)

(5) Mr. Tan Yuansheng (譚源生)

Institute of Acupuncture and Moxibustion, China
Academy of Traditional Chinese Medicine

(2) Professor Haung Longxiang (黄龍祥)

Director, Department of Science Research, Insti-

3. Republic of Korea (大韓民国)

(代表連絡先) 形井秀一 〒305-0821 つくば市春日4-12-7 筑波技術短期大学

Katai Shuichi, Tsukuba College of Technology 4-12-7, Kasuga, Tsukuba, Ibaraki, 305-0821, Japan

E-mail: Katai@k.tsukuba-tech.ac.jp

- (1) Professor Kang Sung-Keel (姜成吉)
Department of Acupuncture and Moxibustion,
College of Oriental Medicine, Kyung Hee Uni-
versity
- (2) Professor Kim Young-Suk (金容奭)
Department of Acupuncture and Moxibustion,
College of Oriental Medicine, Kyung Hee Uni-
versity
- (3) Professor Lee Hye-Jung (李恵貞)
Graduate School of East-West Medical Science,
Kyung Hee University
- (4) Dr. Koo Sung-Tae (具成泰)
Korea Institute of Oriental Medicine
- (5) Associate Professor Park Hi-Joon (朴希濠)
Department of Meridian & Acupuncture, College
of Korean Medicine, Kyung Hee University
- (6) Associate Professor Lee Sang-Hoon (李相勲)
Department of Acupuncture and Moxibustion,
College of Korean Medicine, Kyung Hee Uni-
versity
- (7) Professor Yim Yun-Kyung (任允卿)
College of Oriental Medicine, Dae Jon University
- (8) Associate Professor Song Ho-Sub (宋昊燮)
Kyungwon University

4. Japan (日本)

- (1) Professor Shuichi Katai (形井秀一)
Department of Acupuncture, Tsukuba College of
Technology
- (2) Professor Shoji Shinohara (篠原昭二)
Department of Basic Oriental Medicine, Meiji
University of Oriental Medicine
- (3) Dr. Kenji Kobayashi (小林健二)
Department of Medical History, Oriental Medi-
cine Research Center, Kitazato Institute
- (4) Dr. Hisatsugu Urayama (浦山久嗣)
Academic Staff Member of Meridian Therapy
Association
- (5) Mr. Toshimitsu Katori (香取俊光)
Teacher, School of Blind People in Gunma Pre-
fecture
- (6) Mr. Yasuhiro Kawahara (河原保祐)

Accord Shin-kyu Clinic

(7) Assistant Munenori Saitoh (斉藤宗則)
Department of Basic Oriental Medicine, Meiji
University of Oriental Medicine

(8) Lecturer Shunji Sakaguchi (坂口俊二)
Department of Clinical Research on Acupuncture,
Kansai College of Oriental Medicine

II. 経緯と会議

今回、第二次日本経穴委員会は、平成17年6月10日に開催された第54回(社)全日本鍼灸学会学術大会(福岡)において、ワークショップ「WHO経穴部位標準化会議における協議内容について」を担当し、1. 日本経穴委員会のこれまでの歩み、2. これまで4回開催された国際経穴部位標準化に関する非公式諮問会議の経緯と第二次日本経穴委員会の作業内容、3. 経穴部位を決定するための理論と方法(北京会議の決定事項)および、4. 日本、中国、韓国の3か国で問題となった主な経穴部位と検討結果、について報告する機会を得た。

本委員会は、これまでも、『全日本鍼灸学会雑誌』や『医道の日本』などに、第二次日本経穴委員会の作業内容や非公式会議の議論内容などについて詳細に報告してきた。今回の報告は、『全日本鍼灸学会雑誌』54巻5号の「第3回国際経穴部位標準化に関する非公式諮問会議報告」に続くもので、平成17年4月25日(～27日)に韓国の大田(Daejeon)で開催された第4回の非公式諮問会議の討議内容とそこから明らかになった問題点、さらに今後の予定などについて述べる。

III. 検討事例

第3回国際会議(京都、2004年10月)後、第二次日本経穴委員会作業部会では、非同意穴の日本案作りを中心に作業を進めるとともに、解剖学的表現が困難な経穴部位などの再検討を行ってきた。その案を持って形井委員長が3か国の代表者のみで開催される特別委員会(北京、2005年2月21～25日)に臨み、第4回国際会議(大田)の事前調整が行われた。

大田会議では、3つの大きな課題として、①3

か国で同意が得られていない18穴の検討、②3か国で部位は一致しているが、表現に検討が必要な15穴が挙げられ、さらに中国側から、これまでの検討において3か国で部位の一致をみているが、③中国国内で部位の表現の再検討が必要であるとして改めて提案された24穴を含む58穴が挙げられた(表1)。

表1 第4回会議での検討経穴一覧

①3か国で部位の同意が得られていない18穴

迎香 氣衝 箕門 衝門 勞宮 中衝 瘻脈
天衝 浮白 中封 蠡溝 中都 膝関 水溝
承光 通天 玉枕 脳空

②3か国で部位は一致、表現に検討が必要な16穴

天府 俠白 地倉 温溜 湧泉 頷厭 顧息
目窓 正營 環跳 風市 中瀆 陰包 足五里
陰廉 急脈

③3か国で部位一致、中国側が表現の再検討を求めた24穴

肘髻 足三里 上巨虚 条口 下巨虚 解谿
衝陽 晴明 委陽 築賓 四瀆 天膠 天牖
曲鬢 肩井 輒筋 五枢 太衝 璇璣 聰宮
消灤 臑会 京門 維道

表内の①については18穴中7穴(迎香、水溝、氣衝、衝門、勞宮、中衝、膝関)が再保留となった。各穴の保留内容を列記すると、迎香は、日本・韓国は「鼻翼下縁」、中国は「鼻翼外縁中点」で相違。水溝は日本・韓国は「人中の中央」、中国は「人中溝の上1/3と中1/3の交点」と『玉龍經』の説を強く主張している。氣衝と衝門は、鼠径部の上か下か、動脈拍動部の内か外かが、他の経穴との位置関係などで相違。勞宮は、日本・中国は「第2・3中手骨間」、韓国は「第3・4中手骨間」で相違。中衝は、日本は「橈側爪甲根部」、中国・韓国は「第3指の尖端中央」で、日本では全く知られていない清代中期の顧世澄の外科書『瘍医大全』の説を強く主張した。膝関は、日本は「脛骨内側顆の下縁」、中国・韓国は「脛骨内側顆の後下方」で相違となった。

表中の②については16穴中2穴(環跳、急脈)が再保留となった。環跳は、日本の「大転子の前」を注記として入れることを前提として、中国・韓国の「大転子の後ろ」で同意していた。しかし中国は、国際標準化部位に注記であっても、二つの

取穴法が併記されることに難色を示し、議論はそのまま平行線をたどった。急脈は、①で挙げた氣衝、衝門が決定していないため、再保留となった。

表中の③については24穴中議論ができたのが肘髻から晴明までの8穴で、そのうち下巨虚は解剖学的基準が明確にならず再保留となった。

このように各国で部位が一致しない原因として、「古典の条文に問題がある」、「後代の文献を重視する」の2点があると考えられる。条文の問題とは、具体的には、1. 古典の条文が特定の1箇所を示さない、2. 伝写の過程で字句が変化する、3. 解釈によって説が異なる、などである。後代の文献については、『銅人兪穴鍼灸図経』およびそれ以降の文献を採用している点である。今回、再保留となった水溝や中衝はこの点に帰着している。また、条文の問題については、これこそ国際会議の場で確認し、各国の相違を埋め合わせていく必要があると考える。

以上の議論から、再保留10穴、中国から提出された再検討の残り16穴を残す結果となった。もちろん、3か国で部位について一致をみている経穴についても確認作業は必要となる。よって、今回で終了するはずであった会議は第5回目に突入することとなった。今回も事前に特別委員会(2005年8月16~19日)によって調整を行った上で、本会議に臨むわけであるが、そこでは今まで以上に3か国が充分コミュニケーションをとりながら、「古典や解剖学的表現に拘り過ぎない」、「臨床経験に拘り過ぎない」、「自国の面子に拘り過ぎない」という3つの「過ぎない」の原則を遵守しながら、大きな目的を失わないようにしなくてはならない。

IV. 今後の会議の予定

今後は、2005年8月に北京で特別委員会を各国代表1名の参加で開催し、ここでは同意穴の表記に絞った議論を行う。9月(27-29日)に第5回国際経穴部位標準化に関する非公式会議を日本(大阪、関西鍼灸大学)で行い、経穴部位標準化最終案を決定する。12月から2006年1月頃に第3回特別委員会を開催(場所は未定)し、英訳最終案を作成する。その最終案を世界各国の学会等に

検討を依頼し、各国の意見を集約する。そして2006年の秋頃に国際経穴部位標準化に関する公式会議が開催される予定である(開催国と時期は、第5回国際経穴部位標準化に関する非公式会議の最終日に決定)。



第4回大田会議の議論風景

Foreign Introduction

International Meeting 1

Fourth Informal Consultation Meeting on the Development of International Standard Acupuncture Point Locations

25-27 April 2005, Korea Institute of Oriental Medicine
DAEJEON, KOREA

KATAI Shuichi, SHINOHARA Shoji, URAYAMA Hisatsugu, KATORI Toshimitsu
KOBAYASHI Kenji, KAWAHARA Yasuhiro, SAKAGUCHI Shunji

The Working Group of The 2nd Acupuncture Point Committee

Abstract

"The Informal Consultation Meeting on Development of International Standard Acupuncture Point Locations" was held from April 25th to 27th at the Korea Institute of Oriental Medicine in Daejeon. Here, we will present a report on the proceedings following the third informal consultation meeting held in Kyoto (from October 12th to 14th, 2004).

Members of the Korean, Chinese and Japanese work groups discussed in detail the forty-two controversial acupuncture points. After three days of discussion, we finally agreed on the locations of thirty-two of these controversial acupuncture points and agreed to continue discussing the remaining twenty-six. Confirmation of the non-controversial points should be completed before the next meeting to be held from September 27th to 29th, 2005 at Kansai College of Oriental Medicine, Osaka, Japan.

Zen Nippon Shinkyu Gakkai Zasshi (Journal of the Japan Society of Acupuncture and Moxibustion: JJSAM), 2005; 55(4): 617-620. Received 26 May, 2003; Accepted 22 March, 2005

Key words: International Standard Acupuncture Point Location, The 2nd Acupuncture Point Committee